町民の声

21世紀はみすゞさんの眼差しで

村上　朋子

言語を絶する未曾有の東日本大震災から7ヵ月が経った。今年は日本各地いや世界に大洪水、大地震等気象異変が続いている。自然の人間へのしっぺ返しか。それにしても遅々として進まぬ震災復興。原発事故終息の不透明さ。政治は大丈夫？それとは裏腹に、あの窮地の中から立ち上がっている被災地の人々。その営みの中で次々と人間力を発揮。日本人の素晴らしさを遺憾なく見せつけてくれる。日本人の素晴らしさ、温もり、絆、つながりのすごさを感じる。

その中で今、詩人金子みすゞさんが再び脚光を浴びている。みすゞさんの詩の中に流れているのは「持続するものとしての命」への優しい眼差し、すべては他との関わりにおいて存在していることを忘れてはならないという想いで溢れていることが共感を得たのであろう。

『大漁』

朝焼け小やけだ／大漁だ／大ばいわしの／大漁だ。はまは祭りの／ようだけど／海のなかでは／何万の／いわしのとむらい／するだろう。

視点を変えて物事を観ることの大切さ。『星とたんぽぽ』『こだまでしょうか』『私と小鳥と鈴と』『積もった雪』など51編の作品は、新鮮で強く、一つひとつ生き生きと耀いている。小さいもの、目立たぬもの、弱いものの中に、きらめく命を見つめるみすゞさん。

生かされているということ、見えないけれどあるということ、違うことの素晴らしさなどなど大切な心を深い優しい眼差しで歌っている。

21世紀はみすゞさんの眼差しで生きていきたいものである。

傍聴席

町議会を傍聴して

Y・U

今回、町議会の傍聴は初めてでした。傍聴席は議会席全体が良く見えるように作られていて、やり取りする状況が克明に判りました。

しかし、その内容になると、固有の地名などの質疑応答が理解できないところもあって、この内容が「議会だより」として公表された時には再確認したいと思いました。

傍聴席の方々まで見ている余裕はありませんでしたがカメラ撮りまでしていて、国会のやり取りとは違う、また臨場感がありました。

今回は白石町長の四選出馬表明を促す質問に対し、町長の四期目出馬表明を公式発表する場に傍聴することが出来ました。

その他、質問は多方面にわたり私たちの身近な問題も取り上げていました。また、機会を捉えて傍聴したいと思います。

町民の声の原稿をお寄せ下さい

町政や議会、本誌に対するご意見・ご要望などをどしどしお寄せ下さい。（500字程度）

【宛先】
松前町筒井631
議会広報編集特別委員会
「町民の声」
Fax 985-4148
E-mail：
500gikai@town.masaki.ehime.jp

本会議委員会 傍聴のご案内

住所・氏名・年齢を届けるだけで、どなたでも自由にできます。

松前町議会は、本会議と各常任委員会の傍聴席を設け一般公開しています。

多くのみなさんの傍聴を庁舎5階でお待ちしています。

（次回は12月上～中旬の予定です）